平成２３年度

授業に関する自己評価，授業評価の結果報告

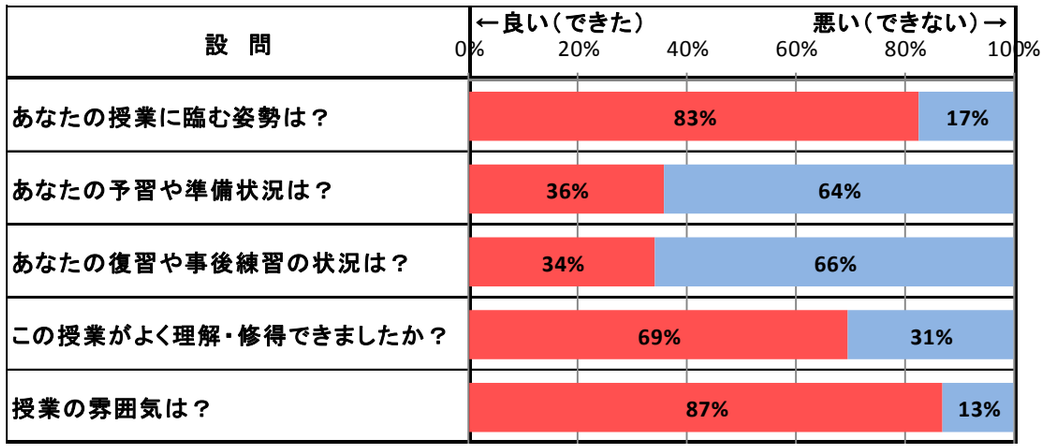
平成２３年１２月２２日
千葉県立小金高等学校

小金高校では，今年度も７月に全校生徒を対象に授業評価を実施しました。その結果をお知らせします。今年度もこの文書による報告に先立ち，アンケート調査の結果等をもとに各教科，各学年で生徒の実態や小金高校の学習に関する課題，その改善策などを話し合い，様々な意見や方策が出されました。さらに，１２月８日には１学年の取り組み事例をもとに，生徒の学習習慣定着と学力向上に向けた取り組みに関する教職員の研修会を実施しました。それらについてもここで報告します。

１　生徒の自己評価について

今年度は以下の５項目について生徒にアンケート（回答は１（悪い）～４（良い）の４段階）を行いました。さらに，国数英理社５教科については，予習・復習がしっかりと取り組めていない原因について調査しました。

図１（生徒の自己評価）



生徒の自己評価については，**図１**で示したように「授業に臨む姿勢」，「授業の雰囲気」については高い数値（肯定的回答）でしたが，昨年同様に「予習、復習への取り組み」が低い数値（否定的回答）となっています。しかし，昨年度と比較すると**図２**で示したように「復習」の数値が昨年度とほぼ変わらなかったものの，「予習」についてはやや改善されてきていることがわかります。また，「授業の理解」についてもやや数値が上昇しており，各教科で生徒の学習への取り組み改善に努めてきた結果が徐々に表れ始めているものと思われます。

図２（昨年度との比較）

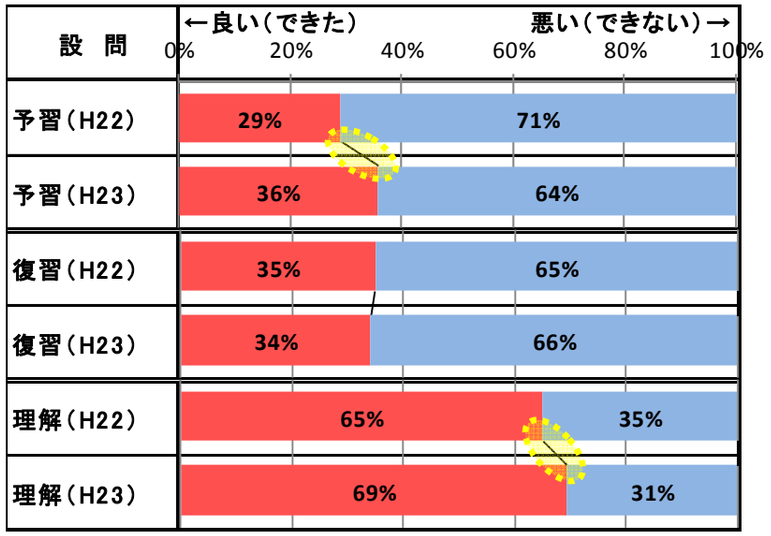
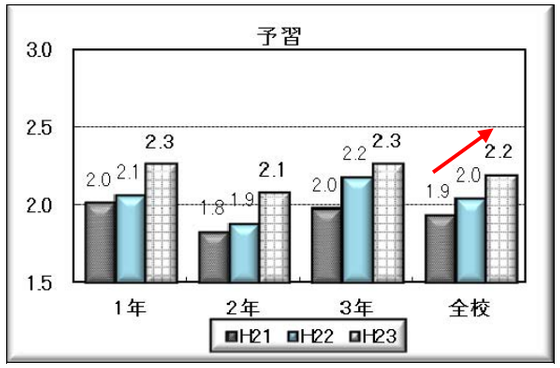
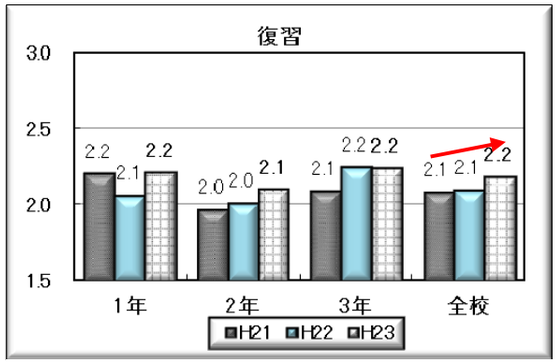


図３では「予習・復習」について，３年間の平均値（良い：４ ⇔ 悪い：１として集計）の推移を示しました。特に「予習」についての改善がこのグラフからもわかります。しかし，まだ半数以上の生徒が否定的な回答をしているので，今後もさらに生徒の学習習慣定着に向けた取り組みを検討していく必要があります。

図３（経年変化）





≪予習・復習にしっかりと取り組めていない理由について≫

今年度は，国数英理社５教科について，「予習・復習」がしっかりと取り組めていない理由について調査しました。結果は**図４**のとおりです。教科の特性によって回答にバラツキはありましたが，全体の傾向で分析すると，「予習」については，「やり方がわからない」「必要性を感じない」といった取り組む以前の問題，「復習」に関しては，「やり方」，「必要性」の数値が減って「時間がない」の数値が増えていることから，取り組む状態はできているものの時間をうまく使えていないということが問題になっていると思われます。特に「やり方」，「必要性」については教員からの働きかけやアドバイスが必要と思われます。また，時間の使い方については，生徒自身に日々の生活を振り返らせ，活用できる時間はないか考えさせるような機会を設けることが必要と思われます。

図４

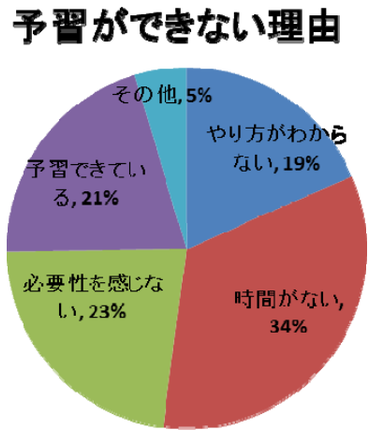


図２

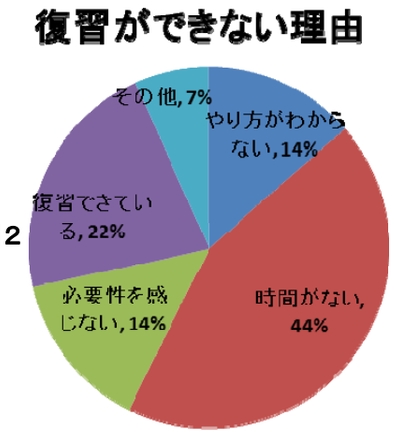


図５

先生の質問のわかりやすさは？	とてもわかりやすい ― わかりやすい ― 普通 ― わかりにくい ― とてもわかりにくい 0% 20% 40% 60% 80% 100% 19% 33% 36% 10% 3%
授業のレベルは？	高すぎる ― 高い ― 普通 ― 低い ― 低すぎる 0% 20% 40% 60% 80% 100% 3% 19% 75% 1% 3%
授業のスピードは？	速すぎる ― 速い ― 普通 ― 遅い ― 遅すぎる 0% 20% 40% 60% 80% 100% 3% 17% 74% 1% 5%
板書や授業のまとめ方は？	よくまとまっている ― まとまっている ― 普通 ― まとまっていない ― 全くまとまっていない 0% 20% 40% 60% 80% 100% 14% 27% 48% 3% 8%

図３

２　授業の評価について

今年度は以下の４項目について生徒にアンケートを行いました。回答は（３：普通を含む）５段階としました。結果は**図５**のとおりです。これも設問ごとに教科によって若干のバラツキはありますが，全体では肯定的な意見が多く見られました。昨年度と設問，質問方法が異なるため，比較はできませんが，授業のレベル，進度についてもおおむね生徒の実情に合わせた授業が行われていると思われます。しかし，科目によっては授業のレベルや進度が高い（速い）ため，授業になかなかついて行けないという個別の意見も寄せられています。個別の意見要望につきましては，教科担当者が一つ一つ確認をして，今後の授業に反映できるか検討をしております。

３　教科・学年等の話し合いで出た意見

・朝自習への取り組ませ方の工夫・検討
・勉強方法について学ぶような講演会の実施
・成績不振者への組織的な対応の検討
・生徒参加型の授業展開の構築
・授業公開の積極的実施
・学校全体として普段から地道に勉強に取り組むという雰囲気作り
・行事と勉強の切り替えをしっかりと確実に行う
・「チャイムと同時に授業開始」を学校として徹底
・年度当初にどのように学習に取り組むのかをしっかりと指導する機会を設ける
・３年選択授業の授業内容の検討（受験対策に重点を置きすぎるとついていけない生徒が出てくる）

４　職員研修について

１２月８日（木）中間考査１日目の放課後に，学力向上に関する職員研修会を実施しました。今年度は１学年で活用している「スタディサポート」の紹介と，実際の活用方法，およびその効果について１学年主任から説明をしてもらいました。活用により「基礎学力の定着」，「学習習慣の定着」，「教員間の情報共有」等の効果が現れ始めているという報告がありました。また，学年職員から「データ分析結果に基づいた個々の生徒への細やかな対応が可能になった」という意見や「生徒の学習に対する意識が変わった」という意見も出されました。今後も各学年で行っている様々な取り組みの効果を検証し，学校として学力向上に取り組んでいく体制を強化していく必要があります。

５　まとめ

昨年度までの課題発見型（重要度・実現度）の授業評価アンケートによって，本校の学習指導における課題は「（予習・復習への取り組みをはじめとする）**生徒に学習習慣を定着させる**こと」であることがわかりました。今年度はその課題を解決するために，各教科や学年を中心に様々な取り組みを実施し，一定の成果を上げました。しかし，まだ十分な状態とは言えません。今後も教員一人一人が生徒の意見や要望に耳を傾け，その中で授業改善に生かせるものについては，積極的に取り入れていくことが大切です。また，教科や学年で出された意見を検討し，より効果的な取り組みを模索していくことも必要です。様々な取り組みの成果はすぐに表には現れないものがほとんどです。地道な取り組みを継続していくことによって，学校全体として学習に取り組む姿勢が向上してくるように努めていきたいと考えております。来年度も授業改善に生かせるような授業評価アンケートの実施を検討していきたいと思います。

※この文章は小金高校のホームページでもご覧になれます。